

# 永崎地区防災緑地ワークショップ かわら版

津波防災のまちづくり（永崎地区）では、今後数十年から百数十年の頻度で発生すると想定される頻度の高い津波に対して、海岸堤防の整備により人命や財産を守ることとしておりますが、今回と同様の津波や、それを上回る津波に対しては、海岸堤防の背後に津波エネルギーの減衰や漂流物の捕捉効果を発揮する防災緑地を整備することとしております。

そうした防災緑地の整備計画に際して、地域の方の意見や色々な視点のアイデアを計画に反映させ、親しまれる防災緑地とすることを目的として、地域の皆さんと共に全4回ワークショップを行います。

第1回ワークショップで地域の方々に親しまれる防災緑地とするために、【ほしいモノ・やってみようコト】、【いらぬモノ・やめてほしいコト】について話し合いを行い、多くの意見が出されました。今回、防災緑地を考える上で重要なキーワードである、風土や樹木に関する講話を参考にしながら、前回整理した意見を踏まえ、『どこで何をしたいか』、『それは何故か』、『そのために必要なモノは何か』というテーマに沿って、グループで話し合いを行い、意見を絵に整理しました。

### 永崎地区防災緑地ワークショップ 全4回の流れ

- 第1回ワークショップ  
ステップ1：防災緑地を知ろう！ **今回実施**
- 第2回ワークショップ  
ステップ2-1：こんな防災緑地がいいな！
- 第3回ワークショップ  
ステップ2-2：防災緑地の計画案をつくろう！
- 第4回ワークショップ  
ステップ3：こんな防災緑地になる！



### 第2回 永崎地区防災緑地ワークショップ —プログラム—

日時：平成25年4月16日（火）18:30～20:30  
場所：市立江名中学校 会議室  
参加人数：18名

1. はじめに
  - ・開会の挨拶
2. 第1回ワークショップのふりかえり
  - ・かわら版の説明
  - ・本日の予定
3. 講話：防災緑地を考えるために
  - ◆風土から防災緑地を考える（廣瀬先生）
  - ◆永崎地区の身近な樹木について（木田先生）
  - ・質疑
5. グループワーク
  - ◆防災緑地の使い方や形について
  - ・発表
6. まとめ
  - ・本日の振り返り
  - ・次回の予定
  - ・閉会の挨拶

### ◆勉強会：防災緑地を考えるために◆

廣瀬先生と木田先生の二人から、『それぞれの想い』と『異なる視点』から防災緑地の活用につながる興味深い話題提供が行われた。

#### 風土から防災緑地を考える（廣瀬先生）

公園の設計や道路、並木道の設計において、その土地の自然に無理な環境を作ってしまうと、自然循環が崩れる危険性があるため、その土地の自然と人々の生活など、**皆が色々な角度から丁寧に調べて考えることで、その地域の風土にふさわしい防災緑地ができる**と説明があった。

- ・海岸に松（クロマツ）が植えられるようになったのは、江戸時代からである
- ・海沿いにクロマツが多いのは、潮に強いためである
- ・防潮堤と防災緑地で全てが安全に保てるということではなく、避難するための時間を確保することや津波の減衰、及び漂流物の捕捉のために樹木が重要である
- ・その土地の自然と生活を詳しく調べた上で、生活空間の延長となるように、風土を考慮して検討するプロセスが永崎海岸のワークショップの中で大事なことだと思う



廣瀬先生の講話風景

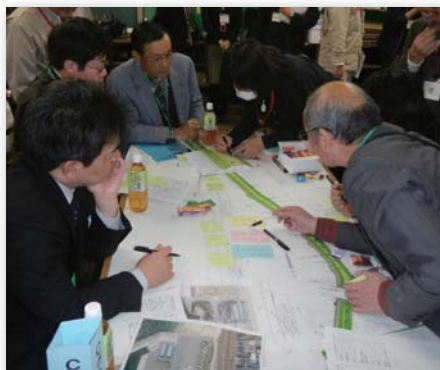
#### 永崎地区の身近な樹木について（木田先生）

『気候からの植生』、『立地からの植生』、『なぜ自然の植生が貴重なのか』などの視点から防災緑地に相応しい樹木の説明を受けました。また、『地域の植物と防災緑地』というテーマでは、防災緑地を整備する中で地元の多様な植生を活かしたいと、永崎地区の樹木について説明があった。

- ・永崎海岸は海沿いの場所ということで、樹木にも耐潮性・土壌条件などの制約が加わる
- ・防災緑地を考えるにあたっては、**防災の機能が一番大切だが、それと一緒に、今回失われてしまった環境や景観を再生したり形成したりする機能が求められる**
- ・再生・形成の中で、身近な植物の保全や活用を図ることは無視できない大切な問題となってくる



木田先生の講話風景



ワークショップ風景

### 第3回

永崎地区防災緑地  
ワークショップの内容

## 平成25年5月21日（火）

時間：18:30～20:30 場所：市立江名中学校

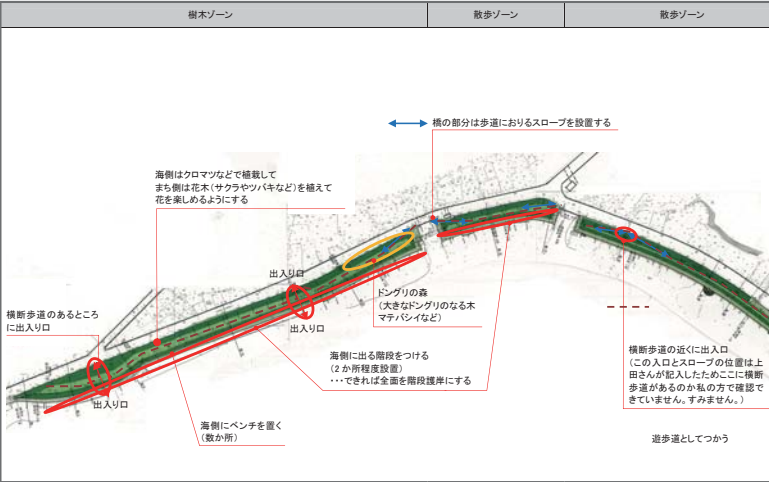
内容：防災緑地の計画案をつくろう！ ◆計画案の確認と複数案のデリメリについて検討



# グループ討議

地域の方々に親しまれる防災緑地とするために、『どこで何をしたいか』、『それは何故か』、『そのために必要なモノは何か』について話し合いをしました

## Aグループの主な意見



### 【①どこで何をしたいか】

- ⑦散歩やドングリ拾いなどで遊びたい
- ①階段護岸終点の対岸に入口
- ②水門の部分はスムーズに移動したい
- ①横断歩道のあるところからスロープで歩けるように

### 【②それはなぜですか】

- ⑦保育所の散歩の途中で遊べるようにする
- ①まちと海の行き来ができるようにする
- ②保育所の散歩コースとしてつかう(緑地全体)
- ①スムーズに移動できるようにする

### 【③そのために必要なモノは何ですか】

- ⑦大きな実のなるドングリの木(マテバシイなど)
- ①海側に下りる階段・全面を階段にしたいけど、2箇所ずつ
- ②スロープで移動できるようにする
- ①横断歩道を渡ったところに入口をつくる

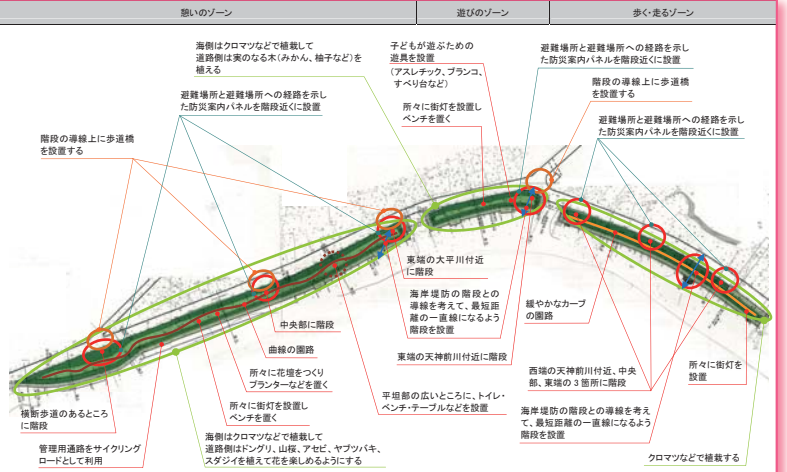
### 【その他】

- ・樹木の管理は、県が行なうのか、地元で行なうのか



## Bグループの主な意見

- ### 【①どこで何をしたいか】
- ⑦東端の大平川付近から西端まで所々、街灯やベンチを設置したい
  - ①管理用通路をサイクリングロードとして利用したい
  - ①避難場所と経路を示した防災案内パネルを階段近くに設置したい
  - ①子ども達が遊ぶ広場・公園として利用したい
  - ②海岸堤防の階段と最短距離の一直線になるよう階段を設置したい
- ### 【②それはなぜですか】
- ⑦一番、園路が広くて長い
  - ①管理用通路を利用することで、歩行者と自転車を分離でき安全
  - ②海岸堤防からの避難を速やかに行うため
  - ①スペース的に一番小さいが園路の幅が広い
- ### 【③そのために必要なモノは何ですか】
- ⑦①街灯、ベンチ、自転車駐輪場
  - ②防災案内パネル
  - ①遊具(アスレチック、ブランコ、すべり台など)
  - ②海側と道路側を結ぶ階段(1箇所)と道路側の階段(3箇所)
- ### 【その他】
- ・駐車場は必要(何らかの目的があって来る為、自動車が必要な人が多いと思う)



## Cグループの主な意見



### 【①どこで何をしたいか】

- ⑦散歩、ウォーキング、ジョギングをしたい
- ①海を見てのんびりしたい
- ②遊具で遊ぶ
- ①海側へ降りる

### 【②それはなぜですか】

- ⑦地域の人たちが(小学生、中学生等もきめて)触れ合える場が欲しいから
- ①安らく時間、ボーとする時間が欲しいから
- ②子どもたちと遊べる場所が欲しいから
- ②水際に行きたいから

### 【③そのために必要なモノは何ですか】

- ⑦花壇、ベンチ、水飲み場、外灯など
- ①階段、日陰になる樹木
- ②遊具や広場
- ①海側へ降りる階段は、緑地にそれぞれ1~2箇所設置して欲しい

### 【その他】

- ・駐車場は、堤内側に2箇所整備予定(県からの回答)



## Dグループの主な意見

- ### 【①どこで何をしたいか】
- ⑦マラソンやランニング
  - ①ウォーキングや犬の散歩
  - ②海にいる鳥を眺める(バードウォッチング)
  - ②小学生や保育園児が気軽に遊べる場
- ### 【②それはなぜですか】
- ⑦①長さもあり、形も比較的まっすぐなので、散歩したり、走ったりすると気持ちよさそうだから
  - ②バードウォッチングをよくするから
  - ①小学校や保育園が近いから
- ### 【③そのために必要なモノは何ですか】
- ⑦散歩しやすい、走りやすい道
  - ①スロープなど、車椅子にも優しい道
  - ②休憩用ベンチ(防潮堤の長さを活かした日本一長いベンチ)
  - ①トイレ、水道、遊具・すべり台(防潮堤から浜に向けてすべる)
  - ①小学校や保育園から海まで続く安全な道や階段
- ### 【その他】
- ・永崎の浜・防潮堤だとわかるようにしたい

